

第14回全国空手道指導者研修会



全員でリズム空手を行う

第14回全国空手道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本空手道連盟、全国高等学校体育連盟空手道専門部、全国中学校空手道連盟、後援＝スポーツ庁）が8月16～18日の日程で、東京・辰巳の日本空手道会館で特別講師、講師、助講師13名、講義協力者5名と、中学校保健体育科教員を中心とする65名の参加者を得て実施された。

本研修会は、中学校武道必修化の充実に向け、日本全国で空手道を指導する中学校、高等学校の指導者を対象に、教科体育「空手道」の理解を深め、空手道の授業指導及び専門的な知識・技術の充実を図り、もって中学校、高等学校空手道指導者の資質向上に資する目的で行われた。

■8月16日（1日目）

13時30分より1階研修室で開講式が行われた。

はじめに、^{さきがわたくし}笹川 堯 全日本空手道連盟会長が挨拶に立ち、「わずか三日間ではありますが、教育的側面や競技性を備える空手道の精神をご理解いただき、空手道は安全で面白いということをぜひ学んでください」と述べた。次に、^{ながしまのぶや}永嶋信哉 日本武道館振興部長が、「皆様には子どもたち



笹川 堯
全日本空手道連盟 会長

の体を動かしたいという原始的欲求に応える授業を展開していただきたいと思います。三日間の収穫が多いことを祈っております」と、参加者を激励した。

開講式後、引き続き^{くさか}日下^{しゅうじ}修二講師が「学校武道推進事業の取組について」講義を行

った。日下講師は中学校で武道が必修化された経緯や、令和3年の学習指導要領の改訂で特別支援学校でも武道が実施されるようになったことに触れ、全日本空手道連盟で学校武道推進委員会を立ち上げて空手道授業の採用校増に力を入れていることや、小学校武道必修化の推進、実現を目指していることなど、今後の展望も交えて、学校武道推進事業の取組について紹介した。

その後、4階の大道場に移動して、「学校訪問プロジェクト模擬授業」を^{おくやまちあき}奥山千秋特別講師が行い、形の模範演武の見学後、座礼、立ち方、拳の握り方、突き、受けを全員で練習した。

初日の最後はテーマ別実習となり、学校現場での授業を念頭に、^{こやまさし}小山正辰講師が「教材研究」、^{いしかわりのゆき}石川周亨講師が「基本技」、^{いのしたかおり}井下佳織講師が「アクティブラーニング」をテーマに講義、実技を展開。参加者は参加したいテーマを自由に選択して実習を行った。



永嶋信哉
日本武道館 振興部長

■8月17日（2日目）

はじめに日野一男ひのかずお講師が「空手道における安全配慮と憲章の求める指導者像」の講義を行い、授業に臨む際の心構えや姿勢、生徒の話に耳を傾けることの重要性のほか、学校現場で実際に起きた裁判事例を引いて、授業を実施する上で注意すべきことや法律的観点からの安全配慮義務について注意喚起があった。講義の最後に、「教員でも外部指導者でも指導する時は安全確保義務があることを認識して空手道の素晴らしさを伝えていってください」と述べ、講義を締めくくった。

続いて、大道場へ移動して佐藤賢一さとうけんいち講師が「特別支援学校・学級における空手道授業」の講義を行った。まず、特別支援学校の武道授業の現状についての説明があり、その後、知的障害の生徒を対象とした授業を参加者が体験する形式で進めていった。佐藤講師からは、突きや受けの指導の際、手の甲に色付のシールを貼ったり、動く場所に目印となるものを置いて視覚的にも理解しやすくすることや、礼の指導においては、1、2、3と声掛けをして動作に入ること、緩急をつけた美しい礼になることなど、現場経験に基づくアドバイスがあった。実技では初級、中級、上級に分かれて、上段突き、中段突き、上段受け、下段受けを組み込んだサーキットトレーニングを全員で行った。

最後に、「パプリカ」という楽曲に合わせて基本形1の突きや受けを練習するリズム空手を行った。これは、技術の習熟に必要な反復練習を子どもたちが楽しく行うために佐藤講師が考案したもので、「単に突きや受けの練習を繰り返すと子どもたちは嫌がりますが、この方法であれば楽しんで参加してくれる上に、1曲の間に各動作がそれぞれ32回も練習できて非常に効率が良いです」と、その効果についても併せて解説した。

午後に入ると、「空手道授業の現状」について岩城いわき公二こうじ講師が指導にあたり、スライドの資料を見ながら空手道の中学校現場での採用状況や、空手道の採用校を増やすために必要な施策を紹介した。また、生徒が主体的に学習に取り組む授業改善のための提言もあり、講師の指導における認識の話では、自身を俯瞰的な視点で捉えるメタ認知や、1人ひとりの



約束組手の練習

生徒の特徴、例えば「わがまま」であれば「自分の意見がある」というように、生徒の特徴をポジティブに捉えるなど、指導上の心構えについても説いた。その後、実技として約束組手を全員で行った。

引き続き野中史子のなかふみこ講師による団体形演武の実技となった。形演武、基本形についてのおさらいをした後、参加者は5人、または6人で1つのグループを作り、基本形を1つ選択して団体で演武練習を行った。実技の終盤ではトーナメント形式の試合を審判、判定も含めて参加者がすべてを担当して実施し、各グループは緊張した面持ちで学習の成果を披露した。

■8月18日（3日目）

最終日は小山講師による「創作組手」の実習となった。「創作組手」は、エア組手（組手当事者間の距離を取り、実際に打ち合わず、動きを合わせるのみにとどめる、けがの心配がない組手の練習方法）で行い、全体を3班に分け、前日に団体形を披露したグループで再び練習に励んだ。創作組手の発表では様々な工夫を凝らした特色ある組手が披露され、演武後には大きな拍手が沸き起こった。

最後に班ごとで意見発表を行い、「初心者であっても考えて創作組手ができる。生徒にも伝えたい」、「創作組手のように自分たちで考える授業なら生徒も積極的に参加してくれると思う」、「見るのもやるのも楽しかった。皆の個性が出ていた。学校の同僚にも教えたい」などの意見が聞かれた。

閉講式では、和田健わたたけし日本武道館振興課長が修了証を授与、小山講師が講師講評を行った。最後に南澤みなみさわ徹とほる全日本空手道連盟専務理事が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。